

都市圏在住者（関東地方）との“本気”で語ろう会 会議録

団体名	都市圏在住者（関東地方）
日時	令和4年7月26日（火）18時30分から20時50分まで
場所	東京交通会館 地下2階会議室A（東京都千代田区）
参加者	本市出身等の都市圏在住者（関東地方）：9名
	ふるさと回帰支援センター職員（オブザーバー）：1名
	市長、市長公室長、人口減少対策本部職員

【主な意見】

- ・ 都会へのあこがれというよりも、自分が学びたいこと、やりたい仕事があるから東京にいる。
- ・ Uターンを支援する企業情報や、具体的な仕事内容、求められるスキルなどの情報がない。希望する職種がない。
- ・ 鹿屋とつながる機会がない。鹿屋とつながる手段がほしい。
- ・ Uターン施策について、行政しか動いていない印象を受ける。  
企業も入れることでUターン希望者は、地元企業ともつながれる。  
地元の良い会社があるのなら、行政と企業がコラボレーションして、もっと情報発信した方がよい。産官学の連携が必要だと思う。
- ・ リモートワークを見越して、IT企業の地域オフィス誘致等行えばよい。
- ・ 鹿屋市の情報を取りにいても、欲しい情報が発信されていない。  
鹿屋市には、地元が好きで地元の事を発信する人（市民）が少ないと感じる。
- ・ 教育を受けさせる場所を作るべき。子ども時代に色々な経験をさせてあげられる場所を作れば、一度地元を離れても、鹿屋の良さを幼少期に感じた人が戻ってくるのではないかな。

【意見交換】

- ・ 市外に居住した理由・きっかけについて
- ・ 都市圏での魅力・暮らし、鹿屋市とのギャップについて
- ・ 鹿屋への愛着があるか、将来鹿屋に帰ってきたいか
- ・ 親は、鹿屋に帰って来てほしいと望んでいるか
- ・ 将来の親との関係性について、どう思っているか
- ・ 外からみた鹿屋の良さ・課題・望むこと

1 市外に居住した理由・きっかけについて

- 鹿屋市内の中学、高専卒業後、理系の学校でレベルが高く、情報量が多いのは東京だと思い千葉県に大学に進学。  
勤務地は気にしなかったが、会社として成長が見込める化学系の企業に就職。  
奨学金返済を考え、若いうちから給料が高い方がよいと考えた。
- 日置市の高校へ進学。箱根駅伝や全日本駅伝出場を目指し、駅伝の強い関東の大学へ進学。
- 鹿屋市内の高校から、薬学部のある福岡の大学へ進学。薬剤師なら県内でも良かったが、研究開発（治験）を希望し、製薬会社の本社就職となると、東京や大阪になるため、東京に就職。コロナ禍によりリモートワークが当たり前にな

れば、鹿屋で仕事をしていてもよいと思っているが、会社はコロナが落ち着けば、出社をさせたい意向が強い。

- 親の転勤で、中学・高校と鹿屋に居住。体育の教員を志望し、関東の体育大学に進学し、現在大学院在学中。
- 鹿児島県内の大学に在学中に1年間、語学留学したことで、価値観や視野が広がり、外に出たいと思い、関東の半導体メーカーに就職。
- 市内高校卒業後、漠然と都会への憧れがあったことから、関東に就職。税務署で法人対象の業務に従事しているが、業種が多く、自分が成長できる環境にあることから、関東に就職した。
- 市内高校卒業後に、東京に進学したい大学があった。大学院で経営学を学び、MBAを取得。専門性の高いハードワーク系の仕事に従事したいと思い、関東に就職。
- 市内の中学、近隣の高校を卒業し、県外の大学に進学。就職を機に関東に居住、語学を活かした仕事を目指していたが、母親から国家資格取得を勧められ、現在、仕事をしながら管理栄養士の資格取得を目指している。
- 市外の私立中・高校に進学。県外への進学が当たり前の学校であり、コンサルタントを目指していたので、大学進学を機に上京し、関東に就職。

## 2 都市圏の魅力・暮らし、鹿屋市とのギャップについて

- 関東には仲間も多く、生活は充実している。鹿屋には友達もほとんど残っていない。鹿屋で2～3カ月リモートワークをする時期もあったが、ほとんど家から出て活動することはなかった。
- コンサルティングの企業は、鹿児島にもあるが、大きい企業を対象にする経営専門職はなく、関東を就職先に選んだ。
- 管理栄養士の専門学校が、鹿屋にはない。専門学校等の教育機関は、都市圏が充実している。
- 外資系のコンサルタントで勤務しており、女性の活躍が当たり前。地元は、男尊女卑の傾向があり、女性は家にいるか、パート等で充分という親戚等の声が多い。

## 3 鹿屋への愛着があるか、将来鹿屋に帰ってきたいか

- 卒業後は実業団で選手として活動し、いずれ鹿児島に帰り、指導者として教員を目指したい。
- 現在博士課程在学中であり、鹿屋が好きなので、卒業後はポストがあれば、鹿屋に戻り、大学の教員として就職したい。サッカーの指導もしたい。
- 仲間を連れて、地元に戻るの楽しい。鹿児島市のシティプロモーション事業に参加し、鹿児島に帰った際の遊ぶ場所を創出する活動は好きである。鹿屋に友人を連れて、バーベキューイベントを開催するなどの活動を積極的に行ってきた。
- 転勤は希望を出せるが、居住地付近への配属が多い。将来鹿屋に帰りたと思う気持ちも心の片隅にはあるが、関東の環境に慣れ、やりがいがある今の環境

で働きたい気持ちが強い。(鹿屋では物足りない。)

- 地元を出たいという思いが強く、鹿屋に戻ることはないと思っている。
- 鹿屋に帰りたいたいと思ひ、仕事を探してみたが、希望する職種がない。  
Uターンのための企業情報や、具体的な仕事内容、求められるスキルなどの情報がない。
- 今の生活を考えると、地元に戻るつもりはない。地元に関わる仕事をいずれはしてみたいという考えはある。食糧（代替肉）等が地域の産業と成りうるか、志布志・鹿児島物流活用など、地元に関連するプロジェクト等があれば関わってみたい。

#### 4 親は、鹿屋に帰って来てほしいと望んでいるか

- 上京時は、行かないでほしいと言われていたが、仕事や生活が充実している様子を感じているのか、現在は言わなくなった。
- 親は、子の足かせになりたくないと言っている。
- 親は、本音は帰ってきてほしいが、子どもの将来をしばらくと声に出せない部分があると思う。
- 青森県の広報誌では、親の子どもに対する本音を出している事例もある。

#### 5 将来の親との関係性について、どう思っているか

- 兄弟が2人地元の親の近くにおり、心配はしていない。
- 今は、親が元気であり、地元に戻ることは考えていない。
- 親の介護が必要になれば、会社も考慮してくれる。リモートワークを許されれば、親元へ帰ることも考えている。

#### 6 外からみた鹿屋の良さ・課題・望むこと

- 卒業や就職で、県外に出てから、鹿屋とつながる機会がなく、鹿屋に帰ろうという気持ちになれない。鹿屋とつながる手段がほしい。  
⇒かのやライフを紹介（事務局）
- 友人を連れて、鹿屋のファンづくり（鹿屋の応援団）をしたい。
- 市役所の社会人採用枠について、5年以上の勤務経験とあったが、上京して3年ほどの時期に条件があわず、受験できなかった。
- 公務員は副業ができない。地元に戻ったとしても、給料が下がった分を補填できない。メールやチャット、商品開発等の副業が可能ならよいと思う。副業が可能になるなら、積極的に情報発信してほしい。  
⇒鹿屋市では、市内事業者が副業人材を活用する際の支援を行っている。  
青森県では、公務員がりんご農家の支援を副業として認めている。今後、公務員の副業については広がりが出てくると考える。
- 今後、テレワークやワーケーションは、あまり進まないと思う。大企業からも聞かない。会社によっては、部署によりフルリモートの部署もあり、二極化が進む可能性はあると思う。
- 給付型の奨学金については、元々、地元に戻るつもりがある人だけが活用する

と思う。(大学4年間で) 500万円程度であれば、活用しないと思う。

- 鹿屋は大学卒の求人があまりなく、アルバイトや社会人経験者採用が多いと感じる。
- 鹿児島市のシティプロモーション事業では、鹿児島をどう楽しめるか、自分たちがどう楽しむかという視点で、新たなコミュニティを作ろうと、東京から30人ほど連れて、参加したことがある。移住までとはいかなくても、何らか地元に関わりたいという取組が必要。
- Uターン施策等について、行政しか動いていない印象を受ける。  
企業情報や実際に企業で働いている人とコミュニケーションが取れることは大事である。地元の良い会社があるのなら、行政と企業がコラボレーションして、もっと情報発信した方が良い。  
Uターン希望者とのコミュニケーションの溝を埋めるためにも、行政だけではなく、産官学の連携が必要だと思う。
- リモートワークを見越して、IT企業の地域オフィス誘致等行えばよい。
- 田舎に帰ると、親は、大企業や高学歴をもてはやしたり、ベンチャー企業は何をしているか分からないと言う方もいたりする。親世代のアップデートも必要だと思う。
- 兵庫県明石市のように、子育て支援策を手厚くしたら良い。
- 地元に戻った時など、鹿屋をどうやって楽しめるか、鹿屋にお金を落とす場所があればよい。今鹿屋に帰ると実家に引きこもるしかない。
- 錦江町とはクラウドファンディング、鹿児島市とはシティプロモーション事業からつながりができた。鹿屋とは、つながるきっかけがない。
- アクティビティが欲しい。「物より事」だと思う。奄美大島にサップをしに行った。地元であればもっと情報発信してほしい。  
⇒ユクサおおすみ海の学校や垂水市にもある。
- 鹿屋は人が優しいまち。喧騒から離れられるまちの印象。
- 情報がなかなか伝わらないまちである。若い人にもっと情報を渡すツール(インスタ、T i k T o k、アクティビティ等)の活用が必要
- 何もないと思っていたが、新しい店も増えており、都会から見たら、庭付きの一戸建てには憧れる。
- リナシティは何のためにあるのか分からない。
- 若者が好むアクティビティや娯楽施設がない。
- 自然豊かで居心地がよい。地元で、喫茶店など行くお店がない(見つからない)
- 住みやすいが、特徴がない。
- 教育を受けさせる場所を作るべき。子ども時代に色々な経験をさせてあげられる場所を作れば、一度地元を離れても、鹿屋の良さを幼少期に感じた人が戻ってくるのではないか。
- 鹿屋市の情報を取りにいても、欲しい情報が発信されていない。鹿屋市には、地元が好きで地元の事を発信する人(市民)が少ないと感じる。  
情報発信するものがないと思っている人が多いのではないか。色々な人がつながる事が大事だと思う。

- 鹿児島の方は、個人に個別にお願いすると頑張る気質があるように感じる。個別に情報発信を依頼すれば、面白いのではないか。

**【市長】**

- 若い世代の方々は、現在の仕事と自分の思いがマッチングしており、現在の生活が充実していると思う。
- 関東・関西等には、鹿屋出身者のふるさと会がある。  
若い人にも参加してもらい、もっと幅広い年代の関係性の構築ができれば良いと思う。
- 市役所では、社会人経験者を年間5～6名採用しているが、これまでの経験等を活かし職場の空気を変えてくれており、評判が良い。
- 鹿屋市には、技術系の職種が少ない。今後、給料・やりがい・夢を叶えるといった職種を増やしたい。